

農大同窓会報

発行所
愛知県立農業大学校同窓会
岡崎市美合町字並松1-2
電話(0564)51-1601

編集発行人
同窓会長 鈴木 吉地
印刷所 (株)イヅミ印刷所
電話(0564)21-2657

「あいさつ」

「環太平洋戦略的 経済連携協定を考える」

会長 鈴木 吉地



同窓会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。平素は本会運営に御支援を頂き誠に有難うございます。特に昨年は農大祭において東日本大震災復興支援のための義援金の寄付に協力いただいた方々には深く御礼申し上げます。なお、この紙面でも後記されていますが、今年の農大祭も昨年の改善点を踏まえ継続して支援活動をされるので同窓会

の皆様との更なる御支援をよろしくお願い致します。

さて、この原稿を私が書いている今、マレーシアではTPPの交渉会合が行われている最中です。この同窓会報が発行される九月にはどのような結論が出ているのでしょうか。菅内閣の時、突然「TPPに参加したい。」と言いつつ、ほとんどの国民が初めは何の事か理解している人は少なかったと思います。その発言の後日に東日本大震災が発生したため、参加の判断を先送りしてしまったことに憤りさえ覚えました。言うに易く行うに難しのごとく、政権が変わっても一度日本が発言した事は戻せま

せん。今、安倍内閣はTPPで妥結後は日本の農産物はほとんど輸出に廻し、七年間で倍額以上の一兆円にすると公約しましたが実際は日本国内で農産物を売る以上に大変なようです。

ここに過日、新聞紙上に掲載された事例を紹介致します。岐阜

の『富有柿』は日本一の産地で、輸出は二〇〇四年度に始まり現在、タイ・香港・マレーシア・シンガポールに三四トンほど出荷されています。輸出先では日本本の三〜六倍の値で販売されているそうです。現地の高級果物店で富裕層に人気の贈答品に使われているらしい。輸出先のベトナムでは柿に二五%の関税が課されているが、現実には生産者である農家には三〜六倍の収入は見込めないでいる。輸出品者が国内市場や農協で買付けるとして現地の小売店へ売る。農家にとっては高く売れた分の差益は

全く還元されていない。それでも輸出に力を入れ始めている背景にはこの五年間で農家の高齢化が原因で一割も栽培面積が減少し廃業が進み、後継者が育たないことへの打開策の一環だそうである。このための『収入増』が必ずや、海外市場に働き始めたところだが、海外市場に個々の農家が打って出るにはかなり限界があるように思います。さまざまな利害を整理し、作り手に利益を還元する仕組み作りを急ぐべきであると感じます。

かつて農業は最も創造的な・わいでした。風を読み、土を操り、命を育み、人々の胃袋と心を満たしてくれました。それがいつしか流通や販売、何をどう作るかも農協に任せきり、多くの農家はTPPよりずっと以前から消費者が「ありがと」「おいしかった」と喜ぶ顔を見失い、ものづくりの実感を持ってなくなつたようです。見方を変えればTPPは、外国産と比較して地産地消の良さを伝えるチャンス、商機とも云われま

す。これ即ち戸別所得補償のよくな一律保護に慣れきつた日本農業に一番必要な刺激なのかも知れません。農家保護から農業の育成、自立にチェンジして夢のあるものづくりとしての農業を今後再生させたいものです。この事が農大の果たす役割であると考えます。

もちろん水源や景観の保全、農村文化の伝承などに不可欠な中山間地の農業は、その多面的機能への対価として欧州のような環境への直接支払でこれからも守っていきたいものです。平成の黒船とも呼ばれるTPPの襲来で、いつになく日本農業の今後について考える機会が増えました。黒船が迫っているのは日本農業の目覚めかも知れません。

さて農大は、来年同窓会創立八十周年を迎えます。来年十一月には式典も予定しております。有意義な式典にしたいと思いますので同窓会員の皆様多数の御出席を希望します。また、学生寮は新寮着工に向けて検討が進められています。

最後に、農業大学の発展と同窓会の方々の御健勝と益々の御活躍をお祈り致します。